

第3学年 国語科学習指導案

指導者

1 単元名

～人物について考えよう 斎藤隆介の世界～

学習したことを生かして「モチモチの木」「火の鳥」

2 指導観

こんな子どもたちだから

- 子どもたちは、読書や読み聞かせが好きで、読む本のジャンルにも広がりが見られるようになってきていて、86%の子どもたちが、読書が好きと答えている。 (意欲・関心)
- 「三年とうげ」「テウギのとんち話」の比べ読みでは、場面の移り変わりの中で登場人物の気持ちの変化を読み取らせた。文中にあることばを比べたり、叙述をつないだりして、人物の気持ちにせまる読み方ができるようになりつつある。 (学び方)
- 聴き合い活動を通して、一人一人の感じ方について違いがあることに気付き、友達の考えを受け入れ、自分の考えを見直すことができるようになってきている。 (認識)

こんな教材を使って

○単元のねらい

本単元は、「登場人物の性格を叙述やことばをもとにとらえ『人物の性格を自分はどう思うのか』を一人一人の生活経験や『自分だったらどうするのか』を交えて考えさせること」をねらいとしている。

また、「火の鳥」は、主人公あさの献身的なやさしさが描かれているお話であり、「モチモチの木」と似ているところがあるので、興味をもって読み進めると考える。真のやさしさの姿を読み取らせるため二つの題材を位置付けた。

○学習指導要領への意義

斎藤隆介の「モチモチの木」「火の鳥」の作品の根底には、一貫してやさしさが流れている。この作品から受ける児童の感想を大切にしながら3年生なりに「やさしさとは何か。」を考えさせていくようにしたい。

このような教材を取り上げることは、人物の性格を叙述に即して、読む力を育てる上で価値高いと考える。

○テーマへの意義

子どもたちにとって、二つの作品の根底に流れる「やさしさ」を交流することで、自分もっているやさしさに対する考えを見直すことができ、「読むこと」を通して考える力を身に付け、豊かな学びをつくる子どもを育てる上で意義深いと考える。

こんな手立てで (方法)

○つかむ段階では

「斎藤隆介さんのお話に出てくる人物はどんな性格なのだろう。」という学習問題を設定する。

学習問題を解決するために、読みのめあて「豆太は、どんな子どもか。」を設定し、話を読む必要感をもたせ、学習計画をたてる。

○さぐる段階では

学習計画に沿って学習を進め、「豆太は、どんな子か。」を予想させる。A おくびょうな子・B やさしい子・C 勇気のある子の立場に立たせる。根拠となる叙述とその叙述から考えられることを考えマップに表すようにする。

同質での聴き合い活動②を設定し、根拠を増やしたり確かにしたりさせるようにする。そして、自分の根拠を整理し自分の考えとしてフリップにまとめていくようにする。

最後に異質グループでの聴き合い活動③を設定する。この聴き合いを通して、3つの考えは関連していることに気付かせるようにする。

○あらわす段階では

教科書教材で学習した学び方を生かして、斎藤隆介作「火の鳥」を自分の力で読み、二つの作品に流れる共通点「やさしさに裏付けられた勇気」を考えさせる。また、ポートフォリオを使いながら、グループや全体で聴き合わせ、自分の考えを見直していく。

斎藤隆介

目指す子どもの姿

- ◎ 斎藤隆介の作品に出会うことで、読書の楽しさを広げようとする。 (意欲・関心)
- ◎ 登場人物の性格について、根拠となる叙述をもとに自分の読み取りを話したり、聴き合ったりすることができる。 (学び方)
- ◎ 聴き合い活動を通して友達との感じ方に違いのあることに気付き、やさしさに対する自分の考えを見直すことができる。 (認識)

国語科部テーマ

「読むこと」を通して、考える力を育てる国語科学習

前単元

〈韓国の昔話を讀もう〉
「三年とうげ」
「テウギのどんち話」

○登場人物の心情やその変容を讀み、二つの昔話の「おもしろさ」や「知恵」の中身を見直す聴き合い活動

「モチモチの木」の豆太はおくびようだが、やさしく、勇気もある子である。やさしさは、勇気のある行動を起こすもとになる。「火の鳥」のあさも、やさしく勇気のある子である。豆太のように、やさしいから人のために勇気を出すことができた。主人公の二人に共通するのは、やさしい心をつかって、人のためになることをするところである。斎藤隆介の二つの作品に共通することは、「やさしさは勇気のもとになる。」ということである。

○主な聴き合い活動

学習問題「斎藤隆介さんのお話に出てくる人物はどんな性格なのだろう。」について、自分が見付けた根拠をもとに聴き合い、友達の考えのよさを受け入れ、「本当のやさしさ」についての考えを見直している。

○主なポートフォリオ評価

ポートフォリオを使って、学習を振り返ることで自分の考えの変容に気付き、二つの作品に流れる人物の性格を比べ、自分の考えを見直している。

豆太はどんな子どもだろう

豆太は、おくびよう者だが、やさしい気持ちももっていて、勇気を出すこともできる子どもだ。やさしさは勇気のもとになっている

勇気

○小犬みたいに体を丸めて表戸体でふっとぼして走り出した。
○ねまきのまんま。はだしで。半道もあるふもとの村まで。
○「モチモチの木に、灯がついている。」

やさしさ

○なきなき走った。
○なきなきふもとの医者様へ走った。
○なきなきふもとの医者様へ走った。
○なきなき走った。
○なきなきふもとの医者様へ走った。
○なきなき走った。
○なきなきふもとの医者様へ走った。

おく病

○こんな冬の真夜中に、モチモチの木をたつた一人で見に出るなつてとんでもねえ話だ。ぶるぶるだ。はじめっからあきらめて、ねてしまった。
○「それじゃあ、おらは、とつてもだめだ。…。」
○「…それじゃあ、おらは、とつてもだめだ。…。」
○「…それじゃあ、おらは、とつてもだめだ。…。」

モチモチの木

モチモチの木表紙

次単元

〈せん争時代の本を讀もう〉
「ちいちゃんのかげおくり」
「おはじきの木」

○場面の情景や登場人物の心情が場面の移り変わりとともに変容していく様子を読み、戦争時代の子どもの気持ちや様子を見直す聴き合い活動

火の鳥

勇気

○「田畑をだめにし、森や林をからす火の鳥は死んでもやつつけてやんないばなんない！」
○火の鳥をきつとにらんだ。
○わざと手をたいては、火の鳥をよび、…すばやくにげた。

やさしさ

○おらがた、百しようは今年は何を食つたらいいんだ。
○つらさを思い出した。
○よし、おらが、たにいじにいけ。
○おらが死んだら、だれが、そでのめんどろを見てくれるだろうか。

火の鳥表紙

4 指導計画 (計19時間)

段階	主な学習活動と内容	評価規準と子どもの姿 ◇=評価規準 ・=意識	指導上の留意点と評価方法 ○=留意点 ◆=評価方法	配時
つかむ	<p>1 単元名、題名から、学習問題をつくる。</p> <p>(1) 斎藤隆介さんが書いた作品を知る。</p> <p>(2) 自分の性格について考えマップに書き、聴き合う。</p> <p>(3) 単元名・題名から学習問題をつくる。</p>	<p>・「モチモチの木」は、斎藤隆介さんが書いたお話なんだな。道徳で学習した「はなさき山」も斎藤隆介さんの作品だったな。</p> <p>・どんなお話かな。</p> <p>・自分はどんな子どもかな。</p> <p>◇単元全体の学習のめあてをつかんでいる。</p>	<p>○事前に道徳で「花さき山」の学習をしておき、やさしい心について考える経験をさせ、興味をもって単元に入れるようにしておく。《支援⑦》</p> <p>◆ポートフォリオ分析</p> <p>○マップを書くことで、自分が「やさしさ」についてどのような考えをもっているのか確かめることができるようにする。《支援③》</p> <p>◆考えマップ分析</p>	1
	<p>「モチモチの木」の読みのめあてをつくる。</p>	<p>をつかんでいる。</p>	<p>○お話を要約させるようにする。《支援①》</p> <p>◆学習プリント・発言・ポートフォリオ分析</p>	1
	<p>＜読みのめあて＞ 豆太は、どんな子どもだろうをとらえる。</p> <p>＜読みのめあてに対する答えの方向＞ おくびょう者だけ、やさしさや勇気もある子だなあ。</p>	<p>・豆太は おくびょう者で</p>	<p>◆学習プリント・発言分析</p>	1
さぐる	<p>て聴き合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おくびょうな子 ・ やさしい子 ・ 勇気のある子 	<p>・じさまが、はらが痛くなった時には、こわくても一人で、夜道を走って、医者様をよびに行ったよ。勇気のある子だな。</p> <p>・じさまのことをしんぱいしているよ。やさしいところもあるね。</p> <p>・どっちが本当の豆太なのか。</p> <p>◇言葉を比べたり、はずしたりして豆太の人物像を想像している。</p> <p>◇豆太は、どんな人物かを叙述とつないで考えている。</p>	<p>●全体</p> <p>・相違点をもとに、課題を明らかにする聴き合い活動</p> <p>あるのか、違うのかを、豆太の性格をどうとらえたかで考えさせるようにする。《支援④⑨》</p> <p>◆学習プリント・発言分析</p>	1
	<p>5 「豆太は、どんな子どもか。」読み深めの視点を決め、人物像を読み深める。</p> <p>(1) 考えマップに読み取ったことを書く。</p> <p>(2) 同質グループで聴き合いをする。</p>		<p>○叙述をもとに豆太の性格を想像させるようにする。根拠となる文や自分の考えを考えマップにまとめさせるようにする。《支援⑤》</p> <p>◆考えマップ分析</p>	8

	<p>(3) フリップに自分の考えをまとめる。</p> <p>(4) 同質グループや全体で聴き合い、共通点を考える。</p> <p>(5) 「豆太」の人物像を聴き合い、はじめの考えと比べ、自分はどうか考えたかまとめる。</p>	<p>・自分の考えを考えマップからフリップに整理してまとめる。</p> <p>・病気のじさまを助けることができたのは、やさしさである。</p> <p>・真夜中に医者様を呼びに行ったのは、勇気である。</p> <p>・やさしさがあると、やらなきゃならない時に勇気をだしてやれる。</p> <p>・やさしさは勇気のもとだ。</p>	<p>交流活動②</p> <p>●同質グループ・全体</p> <p>・豆太の性格について考えを整理する聴き合い活動</p>	
	<p>5 「モチモチの木」と「火の鳥」を比べて読み、共通点をさぐり学習問題の答えをまとめる。</p>	<p>◇副教材「火の鳥」のめあてをつかんでいる。</p>	<p>○聴き合い活動では、自分の考えと友達の考えの相違点を、根拠の文と考えから比べるようにする。</p> <p>《支援④⑨》</p> <p>◆ポートフォリオ・フリップ・自己評価カード分析</p>	5
あ ら わ す	<p>〈読みのめあて〉 あさは、どんな子どもだろう。</p> <p>(1) 「火の鳥」を読んであらすじをつかみ、主人公あさの性格を話し合う。</p> <p>(2) やさしい子・勇気のある子のどちらかの立場に立って読み、考えマップを書く。</p> <p>(3) 同質グループで聴き合いをし、根拠を増やす。</p> <p>(4) フリップに自分の考えを整理する。</p> <p>(5) 異質グループや全体で聴き合い、二つの作品の共通点を考え学習問題の答えをまとめる。</p>	<p>◇あさは、どんな性格かを叙述とつないで考えている。</p> <p>・火の鳥にむかって行って、たいじすることができたのは、あさの勇気である。</p> <p>・火の鳥をたいじしようと思ったのは あさのやさしさである。</p> <p>・あさは、やさしく勇気のある子。</p> <p>・やさしさがあるから、勇気のある行動ができる。</p> <p>◇それぞれお話で共通しているところを見付け学習問題の答えをまとめている。</p> <p>・二つとも登場人物が人のために勇気を出している。それは、やさしい気持ちがあるからだ。</p>	<p>○「モチモチの木」と比べながら、登場人物の性格を見付けることができるようにする。</p> <p>《支援①》</p> <p>◆学習プリント分析</p> <p>○「モチモチの木」で学んだ読み方を使って、考えマップにあさの性格をまとめるようにする。</p> <p>《支援⑤⑥》</p> <p>◆学習プリント・自己評価カード分析</p>	1 本 時
	<p>やさしさがあれば、やらなきゃならないことは勇気を出してやれる。やさしさは、勇気のもとだ。</p> <p>6 単元全体を振り返る。</p> <p>○ 読みのまとめをする。</p> <p>※ 朝読書の時間を活用してほかの斎藤隆介の作品を読む。</p>	<p>斎藤隆介作</p> <p>「半日村」「ソメコとオ二」「ふき」「八郎」「サンコ」</p>	<p>交流活動③</p> <p>●異質グループ・全体</p> <p>・二つの作品の共通点ををもとに考えを見直す聴き合い活動</p> <p>○ポートフォリオや板書を使って共通点を見出すことができるようにする。</p> <p>《支援④⑨》</p> <p>◆ポートフォリオ・フリップ・自己評価カード分析</p> <p>○これまでの学習をふり振り返り、自らの考えが豊かになったかを評価させる。</p> <p>《支援②③》</p> <p>◆自己評価カード分析</p>	1

5 本時

あさについて「勇気のある子」「やさしい子」という視点から聴き合うことを通して、教科書教材の豆太と比べ、斎藤隆介のお話の「人間のやさしさ」に気付かせ、自分の考えを見直す時間 (18/19)

6 本時の目標

- 「あさは、どんな子どもか。」あさの心情が表れている叙述をもとに読み深めることができる。
(学習指導要領から)
- 二つの作品の共通点を考え学習問題についての考えを友達の考えと比較しながら聴き合うことができる。
(テーマから)

7 本時の授業仮説

叙述をもとに登場人物の性格についてとらえ、それぞれがとらえた登場人物の性格を聴き合う活動を設定し、登場人物のやさしさを見直すポートフォリオ評価を取り入れていけば、「読むこと」を通して、人間の真のやさしさについて自分の考えを見直すことができるであろう。

8 本時指導の考え方

○本時のねらい

本時は、あさの性格を「やさしい子」「勇気のある子」のどちらかの立場に立ち、叙述を根拠にして読み深めそれぞれの考えを聴き合う活動を通して、「あさは、どんな子どもか。」考え、さらに斎藤隆介のお話の「人間のやさしさ」に気付かせることをねらいとしている。

前時までに、子どもたちは、あさの性格について、「やさしい子」「勇気のある子」の側面から考え、フリップに自分の考えをまとめている。フリップには、あさの会話文や心情を描いた文などの根拠となる文と、そこから考える自分の考えが書かれている。子どもたちは、叙述をもとにあさの行った行動が「やさしさ」であるのか「勇気」であるのか、自分の考えをもつことができている。

本時では、副教材の人物あさの性格を聴き合い、それを教科書教材の人物豆太と比べ、二つの作品の共通点について考え、学習問題のまとめをし、「やさしさ」に対する自分の考えを見直していきたいと考える。

○交流活動の工夫について

はじめに異質グループでの聴き合いをしてから、二人の代表児童の発表による、全体での聴き合い活動を行う。あさの性格を「やさしい子」の面から考えている児童と「勇気のある子」の面から考えている児童の二人が代表となり、聴き合い活動を行う。二人の代表児童の発表と自分の考えを比べながら聴き、確かめ、質問や感想を発表し、代表児童の考えを引き出すことができるようにする。そして、二つの考えの関係を考えさせることで、あさの性格を「モチモチの木」の豆太と同じように「やさしさがあるから、勇気を出すことができた。」と「やさしさ」と「勇気」の二つの考えが必要であることに気づかせ、自分の考えを見直していくようにする。

さらに、「モチモチの木」と「火の鳥」の人物の性格を比べることで、二つの作品の共通点に気付かせる。そうすることで、斎藤隆介のお話の世界には、「人間のやさしさ」が描かれていて、「やさしい気持ちがあれば、やらなきゃならないことはできる」人間の真のやさしさに気付く子が育つと考える。

○評価活動の工夫について

聴き合い活動を通して、友達の考えのよさを受け入れことで、自分の考えマップに付加したり、修正したりする。また、これまでのポートフォリオを振り返り、自分の考えの変容をとらえ、自己評価カードに書くようにする。

・規準に満たない子への支援

本時学習に自分の考えをしっかりと持って臨むことができるように、本時学習前に同質グループによる聴き合い活動と相談活動を行う。相談活動の中では、根拠となる文から自分はどうのように考えたのかを一つ一つ確認し、自分の考えに自信をもたせる。また、聴き合い活動における話し方を練習したり、聴くときの視点を事前に確認したりし、どんな質問や確かめをしたらよいのか個別に指導しておく。

9 準備

学習の流れ図、フリップ、授業用資料、ポートフォリオ、自己評価カード

10 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援	評価基準		資料
<p>1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>学習問題：斎藤隆介さんのお話に出てくる人物はどんな性格なのだろう。</p> <p>本時のめあて：あさは、どんな子どもか聴き合い、豆太とくらべて自分の考えを見直そう。</p>	<p>○本時のめあてを確認し学習の見通しをもたせるようにする。</p>	基準A	基準B	学習の流れ図
<p>2 聴き合い活動をする。</p> <p>(1) グループで聴き合う。</p> <p>(2) 全体で聴き合う。</p> <p>○「勇気がある子」という視点からの代表児童</p> <p>○「やさしい子」という視点からの代表児童</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 勇気 </div> <div style="font-size: 2em;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> やさしさ </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>何とかして、たいじしてやるという気持ちが強くこわがっていない。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ききんになったらみんながくるしむのでみんなのためにたたかっている。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>あさは、「やさしく、勇気のある子」だ。やさしさがあるから、勇気が出る。みんなのために勇気を出して火の鳥とたたかったあさをほんとうのやさしさをもった子どもだと思った。</p> </div>	<p>○自分の考えと友達の考えの同じところと違うところを比べながら聴くようにする。</p> <p>○新しく自分の考えに取り入れるときは、考えマップに赤鉛筆で付け加えるようにする。</p> <p>○二つの作品の共通点を見付け、真のやさしさに気付くことができるようにする。</p>	<p>・自分の考えと友達の考えを比べながら聴き、友達の考えのよさを見付けて感想を述べたり、よく分からないところを質問や確かめをしたりすることができる。</p>	<p>・自分の考えと友達の考えを比べながら聴き、友達の考えとの違いを見付けて質問や確かめ、感想を述べることができる。</p>	フリップ 考えマップ
<p>3. 自己評価カードをもとに発表する。</p> <p>○「モチモチの木」と「火の鳥」を比べる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><本時で目指す子どもの姿></p> <p>ぼくは、あさは、「勇気がある子」だと思っていました。代表の〇〇くんの考えで、「やさしい子」だということもなっとくしました。豆太のようにやさしさがあったから勇気が出るのだと分かりました。「モチモチの木」も「火の鳥」も豆太やあさが、勇気を出して人を助けるところがにていると思いました。やさしさがあるとすごいパワーが出せるんだなあと思いました。斎藤隆介さんの二つの話を比べて読んだら、やさしさは、人のためにつかうことだと気づきました。</p> </div>	<p>○ポートフォリオを活用して、「モチモチの木」の考えと比べるようにする。</p>	<p>基準Bに達しない子への支援</p> <p>・色分けや構造化した板書を工夫したり、聴き合いをする際の視点がわかるような短冊カードを用意したりして、聴き合い活動をすすめることができるようにする。</p>	<p>・友達のことを自分の考えに取り入れることができる。</p>	ポートフォリオ 自己評価カード
<p>4 次時の学習を知る。</p>	<p>○本単元のまとめをすることを伝える。</p>	<p>・友達のことを自分の考えとつないで取り入れることができ、作品の共通点に気付くことができる。</p>	<p>・友達の考えを自分の考えに取り入れることができる。</p>	
		<p>基準Bに達しない子への支援</p> <p>・ポートフォリオのはじめに書いた自分の考えと比べさせる。赤鉛筆で記入したところに注目させ、友達の考えのよさに気付かせる。</p>		

